



# 10年連続、学校賞獲得 YBC読書感想「本の森たんけん」

昨年11月10日に、第45回YBC読書感想「本の森たんけん」の表彰式がYBCメディアタワーで行われました。楯岡小学校は、2003年の第36回から今回の第45回まで10回連続して学校賞を受賞しました。

## 村山市立楯岡小学校

### 活発に利用されている学校図書館

楯岡小学校の朝は学校図書館で本を借りることから始まります。朝8:00になると子どもたちは学校図書館に自然と集まってきます。そして、自分が読みたい本を借りていきます。ほんの15分の間ですが、たくさんの子どもたちが学校図書館を訪れます。目を輝かせて本を探している姿や、友達と一緒に本をめくりながら楽しく話している場面を見ると、学校図書館が子どもたちと本をつないでいるとても大切な場所なのです。

楯岡小学校の学校図書館は2つあり、1・2年生が利用する「みどり図書館」と3年生から6年生までが利用する「楯山図書館」があります。どちらの学校図書館も学年に応じた本を揃え、子どもたちが手に取りやすい環境づくりに心がけています。年に1回行っている取り組みですが、学校図書館に導入する本を子どもたちが選ぶ活動はとても好評です。図書整理員が選んでおいた本から子どもたち全員が好きな本に投票し、最も投票が多かった10冊を導入します。新しい本が入った日は、子どもたちが行列を作り学校図書館が開くのを行っています。

### 本が身近に感じられる環境

村山市では読書推進活動として「はじめの1冊」事業を行っています。毎年、小学校に入学した1年生の子どもたちへ1冊の本が贈呈されます。この本は、一生を通じて、読書好きでいつも本に親しみ、心豊かな人になってもらいたいという願いが込められた1冊です。

また、楯岡小学校と村山市立図書館が連携して、親子でいろんな本と出会い、触れ合う「あい・あいライブラリー」を行っています。市立図書館が閉館した後を貸し切り、親子で読書をするという取り組みです。年3回程行っていますが、毎回子どもたちや保護者で大変賑わいます。

その他にも、PTAの母親委員を中心とした読み聞かせや、地域で活躍する団体による人形劇や昔話りの上演などを通して、主人公の気持ちを共有したり、想像力をふくらませたりする力が養われています。本との触れ合いの他にも様々な人との触れ合いによって、物事を理解する力や、これからの生活に必要な「生きる力」を身につけていきます。

読書感想文は、1冊の本を読んで生まれた感想や発見、新たな行動、体験などをまとめたものです。そして、本と自然に触れ合える環境や、子どもたちを見守っているたくさんの方々の温かい支えなどによって1冊の本から抜け出し、さらに広い世界へと想像をふくらませるのかもしれませんが。



1・2年生が利用する「みどり図書館」



3年生から6年生が利用する「楯山図書館」



自分の思った事や感じた事を言葉にして友達に話すことはとても大切なコミュニケーションの一つです。



昔語りは、物事の善悪の中身が自然と身に付くような話が多いそうです。



第45回YBC読書感想「本の森たんけん」表彰式の様子